

# Scoop

2005年4月

インプレッサ

スバル

2度目の整形手術6月断行 今度こそ混迷から抜け出せるか!?

[zoom](#)

R2を皮切りに展開されているスプレッド・ウイングス・グリルは新型インプレッサにも用いられる。それにしても、これほど大規模な手直しが2度も行われるクルマも珍しい。

ミニバンやコンパクトカーが幅を利かしている今日でも、ボくらクルマ好きの気持ちを激しく揺さぶるのがインプレッサWRXとランサーエボリューションのガチンコ勝負だろう。確かに販売台数を競い合う勝負もあるが、ボくらがクルマに期待する要素、すなわち「速さ」の面でここまでストレートに争っているのはこの2車だけ。3月にランエボがIXに生まれ変わったとくれば、インプレッサが黙っているわけがない。間髪入れずに6月、恒例ともいえる戦闘力アップが図られる。

今回のMCではエボIXにリードされた性能が向上されることもさることながら、外観が大きく変わるのもトピックとして見逃せない。ランエボの外観がフロントグリルとバンパーの手直しにとどまったのとは対照的に、新型インプレッサにはスバルの新しいアイデンティティでもあるスプレッド・ウイングス・グリルが採用される。

本誌が大胆予想する新しいマスクを上に掲載した。R2から展開が始まったスプレッド・ウイングス・グリルがそのまま装着されるのではなく、より直線的なスタイリングのインプレッサにマッチさせた新形状に進化すると考える。

その根拠は次のとおりだ。チーフデザイナーのアンドレアス・ザパティナス氏がかつてアルファロメオで147をデザインした影響か、R2のスプレッド・ウイングス・グリルはアルファロメオを強く意識させる円形に近い形状となった。しかし、そのR2の販売台数が目標を下回っていることが原因なのか、その後にデビューしたR1では人気の高かった2代目レガシィ

を彷彿とさせる台形へと進化。そこで、スクープ班は新型インプレッサのグリルが三分割型を引き継ぎながらも、R1と同じように中央部分がシャープな形状にまとめられると予想したワケだ。

肝心の性能についても報告しよう。まず気になる最高出力だが、残念ながら280psオーバーはないと思われる。ランエボはIXでトルクアップを果たしたが、注目の280ps超えは実現しなかった。「レジェンドがOKだったのに、一連のリコール隠しで国交省の反感を買った三菱だからダメだったのか」と思いきや、国交省は280ps以上の最高出力を発生するにふさわしい大排気量車でなければ認めない模様だからだ。ランエボにスペック上で0.5kg/m差にまで迫られ、モータージャーナリストからも「ランエボIXのほうがパワフル」とのレッテルまで貼られたため、トルクアップが図られるのは確実。エンジンの性能向上に合わせて駆動系や足回りといった細部にまで手が加えられるはずだ。

6月の“インプレッサVSランエボ05年ラウンド”も見逃せない一戦となりそうだ。





許可無く複製転載する事は法律に禁じます。

COPYRIGHT (C) SANEI-SHOBOU, INC & LOCKHOUSE, INC ALL RIGHTS RESERVED



許可無く複製転載する事は法律に禁じます。

COPYRIGHT (C) SANEI-SHOBOU, INC & LOCKHOUSE, INC ALL RIGHTS RESERVED



許可無く複製転載する事は法律に禁じます。

COPYRIGHT (C) SANEI-SHOBOU, INC & LOCKHOUSE, INC ALL RIGHTS RESERVED